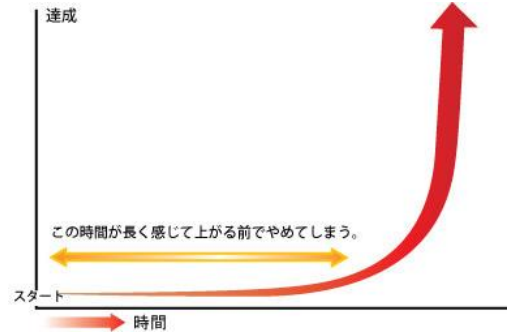


未来志創

よし！廣晴ろう！

何かを学習したり経験したりするとき、すぐにその成果が表れるようなことはありません。当たり前ですが、何かで大きな結果を出すためには時間が必要です。ただ、多くの人は大きな成果を出す前に諦めてしまいます。わずか数か月の努力しかしていないにも関わらず、自分は無理だと思い込み、すぐに元の状態に戻ってしまうのです。だからこそ、人がどのように成長し、成果が表れてくるのかについて、あらかじめ知っておくことが大切です。



人間の成功曲線を事前に理解しておけば、今成果が表れていなくても全く問題ないことに気付けるようになります。それが右の図です。以前紹介した「努力と成果」グラフも成功曲線です。大切なのは、日々努力を続けることです。そうすれば、気付かないうちに目に見えない皆さんの「根っこ」がしっかり下へ下へと伸びていき、大きく成長したときの自分を支える力をつけてくれますよ。

目に見えない「根っこ」

植物にとっては根っこは水や養分を吸収したり、体を支えるための大切な器官である。根っこがなければ、植物はたちまち干上がってしまうし、根っこが十分に張っていないと、茎が簡単に倒れてしまう。

同様に、人間にとっても「根っこ」は大切なものだ。「根気」や「根性」「根本」など、「根」という言葉が人の本質を表すことからそれがわかる。

それでは、その根はいつ伸びるのだろうか。水栽培されているヒヤシンスなどを見ると、短い根が出ているだけで、根っこはあまり伸びていないし、細かい根はほとんど生えていない。水が十分にあり条件では、必要以上に根を伸ばす必要がないのだ。水がないところでは、植物の根は水を求めてグッと深く伸びる。そして、四方八方に張りめぐらされた根が、大地をしっかりとつかむのである。**根が成長するのは、条件に恵まれたときではない。苦しいときこそ、根が伸びるのだ。** 恵まれたときは、茎を伸ばしたり葉を茂らせるのに忙しくて、根は伸びている暇はない。干されたときこそが成長のチャンスである。土の下に伸びた根っこは、目に見えないがその植物の実力そのものである。毎日、水を与えている庭の草花が夏の日照りで萎れているのに、誰も水をやらない道端の雑草は青々と茂っている。日照りにあったときに、その植物の真の強さがわかる。雑草に水をやる人はいない。けっして恵まれた条件に生えているとはいえない。だからこそ、毎日、水を与えられている草花とは根の張り方が違うのである。



『雑草に学ぶ「ルデラル」な生き方』(稲垣栄洋)